

未来を見据えた新たな付加価値の創出

～営農指導からスマート技術を活かした技術指導へ～

みやぎ仙南農業協同組合

高橋 昭彦

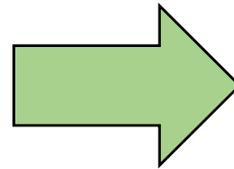
変 化

テーマは「新たな付加価値の創出」と「総合事業力の活性化」

現状

- ・農業者の**高齢化**
- ・時代の**変化**
- ・利用者の**価値観の変化**
- ・利用者の**多様化**

外部環境が急速に**変化**している！



JAは生産から生活まで包括的にサポートする地域に根付いた強力なビジネスモデルだったが、**組合員の考え方も変わり**JAも数ある業者の中の選択肢の一つに…

JAの利用者・利用率ともに**減少傾向**

JAも取り残されないために**変化**が必要！

未来（ビジョン）

・組合員に対して…

営農指導を通じた新たな付加価値で組合員の心をつかむ

・農協に対して…

新たな付加価値を通じ総合事業力を活かした健全経営

当組合の現状

- ・組合員数が減少し続けている
- ・金融共済事業に依存した収益構造
- ・営農販売手数料の主役の米が集まっていない

管内農家の現状

- ・基幹的農業従事者の高齢化
- ・労働力の低下（高齢化と次世代後継者問題）
- ・圃場整備の促進による農家の大規模化

JAみやぎ仙南の課題

- ・金融共済事業への依存体質を改善
- ・組合員数の減少
- ・JAへの米の集荷数減少
- ・農業資材の売上減少（共同購入の限界）

JAみやぎ仙南を取巻く環境（SWOT分析）

強み（S）内部環境

- ・営農・金融・共済の総合事業であること
- ・長年続いてきたブランド力があること
- ・地域密着で他社にはない関係性
- ・比較的新しい農業倉庫とントリーがある

弱み（W）内部環境

- ・組合員数が減少している
- ・組員の大規模化と法人化による農協離れ
- ・職員数の減少（中途退職増、新入職員減）
- ・職員数の減少からくる一人当たりの業務過多

機会（O）外部環境

- ・スマート農業の普及
- ・AI技術の進化・DX化促進
- ・食育への関心
- ・農地の集約化・圃場整備
- ・米価の高騰

脅威（T）外部環境

- ・少子高齢化による農業者人口減少
- ・米価高騰による競合集荷業者の増加
- ・物価高騰による価格競争の激化
- ・JAに対する価値観の変化・社会的位置の変化

管内農家の課題

- ・農業者の高齢化
- ・高齢化に伴う労働力の低下
- ・農地の集約化への対応

抱える問題に関連性を持たせる（As is/To be分析）

As-is（現状）	To-be（あるべき理想の状態）
JAみやぎ仙南	
金融共済事業に収益が依存してる	金融共済の収益依存を脱却し、営農部門の単独の収益力向上
組合員数が減少している	減少を緩やかにするため新たな組合員（個人・法人）を確保
JAへの米の集荷数減少	他社に向いてしまった出荷先をJAに呼び戻しシェアが回復された状態
農業資材・農機具の売上が減少	他社に向いてしまった仕入れ先をJAに呼び戻しシェアが回復された状態
管内農家	
農業者の高齢化	次世代の後継者が確保された状態
農業者の高齢化に伴う労働力低下	農業を省力化し労働力不足が解消された状態
農地の集約化・大規模化	新規設立法人への支援・大規模農家へ適切な指導が行われている状態

可視化した課題の理想の状態を考え、JAと管内農家の課題を関係性を持たせる。

管内農家の**悩みの解決**がJAの課題解決につながる提案を導き出す。

ポイントは…

労働力不足の解消と農業法人・大規模農家への支援

JAみやぎ仙南のクロスSWOT分析		外的要因	
		機会 (O)	脅威 (T)
		<ul style="list-style-type: none"> スマート農業の普及 AI技術の進化・DX化促進 食育への関心 農地の集約化・圃場整備 米価の高騰 	<ul style="list-style-type: none"> 少子高齢化による農業者人口減少 米価高騰による競合集荷業者の増加 物価高騰による価格競争の激化 JAに対する価値観の変化・社会的位置の変化
内的要因	強み (S)	積極的攻勢 (O×S)	差別化戦略 (T×S)
	<ul style="list-style-type: none"> 営農・金融・共済の総合事業であること 長年続いてきたブランド力があること 地域密着で他社にはない関係性 比較的新しい農業倉庫とカントリーがある 	<ul style="list-style-type: none"> JA主導のスマート農業普及拡大・支援を通じた新たな付加価値づくり 集約化した大型圃場への省力化技術の提案 食育を通じて未来の農家人口の増加 	<ul style="list-style-type: none"> JA独自のブランド商品の開発（肥料・農薬など） JA独自の補助事業（農業機械・資材農業融資などに対して）
	弱み (W)	段階的に対応 (O×W)	守り中心・撤退の検討 (T×W)
	<ul style="list-style-type: none"> 組合員数が減少している 組員の大規模化と法人化による農協離れ 職員数の減少（中途退職増、新入職員減少） 職員数の減少からくる一人当たりの業務過多 	<ul style="list-style-type: none"> AI技術を活用した人材不足の解消 食育を通じて未来のJA職員・組合員を増やす 	<ul style="list-style-type: none"> 不採算事業は撤退もしくは外部委託

将来に向けた新たな付加価値の可能性として「**JA主導のスマート農業普及拡大・支援を通じた新たな付加価値づくり**」と「**集約化した大型圃場への省力化技術の提案**」を軸に提案を考察。

農協のコアコンピタンスに「変革」を

JAにとって「**営農指導**」とは他社の業務にはない唯一無二の**コアコンピタンス**

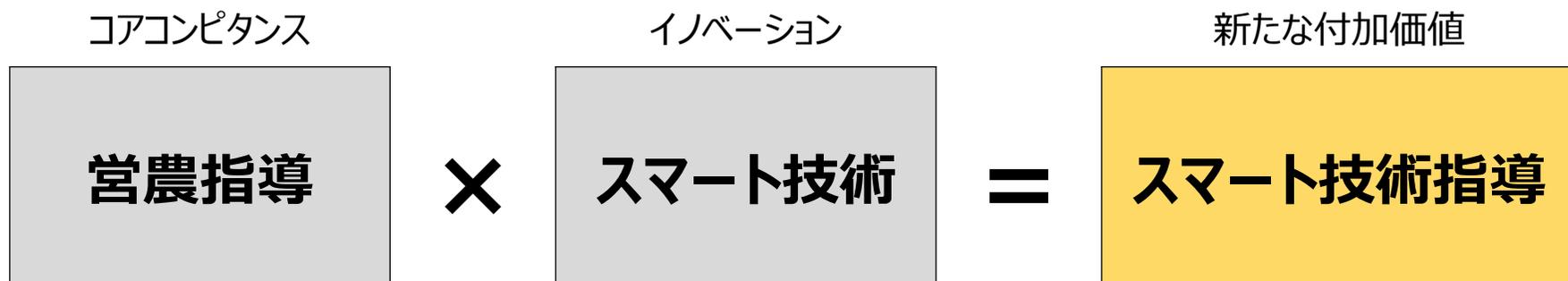
ただし…

時代・社会の価値観の変化により従来の営農指導では**農家の関心・興味を引くのは難しい**。

また…

営農指導という業務自体がJAの**直接収益源**となるのは難しく、いかにして**他事業・他部門へ結びつけ収入源**として寄与していくかが**重要**。

そこで既存のコアコンピタンスに新たな変革を加え、**今の時代に合った進化**が必要。



なぜスマート技術が普及しないのか？

…多くの農家にとって苦手な分野かつ導入ハードルが高い

だからこそ**農家の苦手分野を農協が支援し解決に導く「スマート技術指導」が新たな付加価値に！**

スマート農業の普及や省力化技術を専門的に指導・提案を行う部署

「営農技術推進課」の創設

10年後には基幹的農業従事者の平均年齢は約80歳に到達

→ 耕作できなくなった農地は大口農家や農業法人へと農地の集約化が進む

農家1戸当たり耕作面積は大きくなることが予測される

→ 農業経営の中にスマート技術は必要不可欠なものになっていく

未来を見据えると農協としても今のうちから力を入れていかなくてはならない分野



ターゲット層は将来面積が集約化していくことが予想される作付面積10ha以上の大規模農家

農業先進技術講習会の企画（①情報収集・発信）

関係機関や農業資材・農機具メーカーを交えて最新の営農情報を届ける講習会を開催する

具体的な開催頻度としては年4回を目標に開催

その時期の作業内容にフォーカスして関心を引くようなテーマを設定

イメージ図

講習会年間スケジュール												
月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
農作業			耕起	種まき	田植え	除草	追肥		収穫	収穫		
							防除					
開催時期		講習会				講習会		講習会				講習会
テーマ		除草関係				防除関係		最新機器				肥料関係

最新の技術・情報に関心を持ってもらいSTEP 2の支援につなげていく！

スマート技術の普及支援（②支援・提案）

支援 1

圃場管理システムを活用した指導

- 圃場マッピング支援を通じた作付圃場・作付データの可視化
- スマート技術が導入できそうな圃場を選定し支援 2 につなげる

支援 2

ドローンを活用した散布支援及び
実演

- 農協が散布支援を行い農家の労働力不足解消とドローンの有用性・必要性をPR
- 特に追肥の散布効果による収穫量の向上を実感してもらう

支援 3

機械導入の補助事業申請支援

- 特に農業経営計画（5カ年計画）の作成を支援
- 経営計画作成支援を通じ未来の需要を把握し次の提案につなげる

支援を通じ生産者のスマート技術導入のハードルを下げ、最終的に技術導入につなげていく！

導入後の指導と他部署・事業への伝達（③普及・伝達）

生産者に対して…

スマート技術を活用し水稻直播栽培に取り組む

労力軽減を図りながら大規模経営がしやすくなる環境を整備していく
→生産面積拡大により米の収穫量が増え生産者の農業所得向上

JAに対して…

「+1」の提案で総合事業を活性化

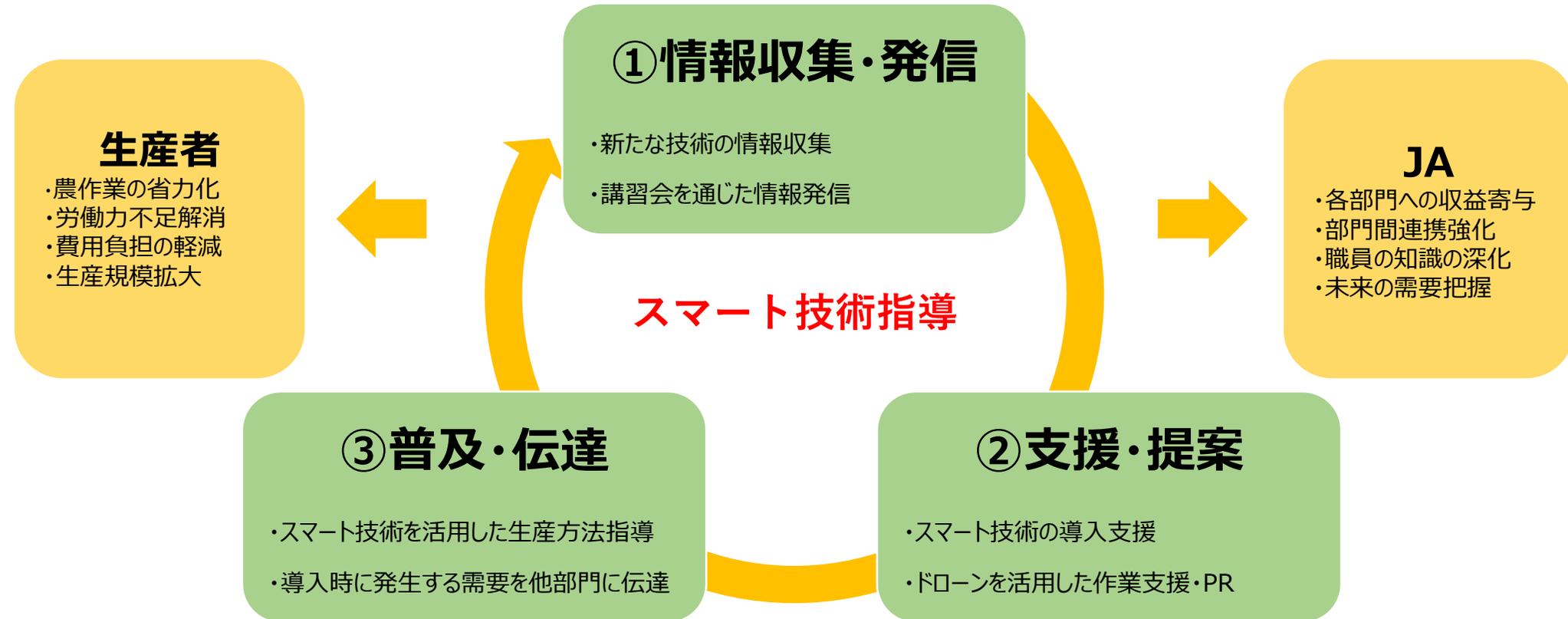
スマート技術の導入の際に発生する他部門の需要を把握し提案
→JA事業全体の視野に立ち、他部門の収益につながる提案を一つ行うことを意識！
例）導入の際の融資提案、リスクに備えた共済の提案、導入に備える蓄えなど

最終的には生産者の心をつかめるかがカギになる！

新たな技術指導を通じてお金では買えない信頼関係「持ちつ持たれつの関係」を築けるかが重要。

「協同の理念」の再構築するのが我々指導員の使命！

スマート技術指導のイメージ図



時代の変化・トレンドの変化に柔軟に対応していくことが重要！
①→②→③とループしスマート技術指導も常に進化を続けていく！

塵も積もれば山となる！

・省力化技術導入による生産者への影響

・収益の寄与イメージ

1町歩（100a）の面積を作付する所要時間比較			
	慣行栽培	水稲直播栽培（湛水）	
使用機械	全自動播種機 6条田植機	6条田植機	ドローン
種まき	1～1.5時間	そもそも苗を使用しない	
田植え	3～4時間	2～3時間	2時間
合計所要時間	4～5.5時間	2～3時間	2時間

ドローン導入費用の回収と他部門への収益寄与の試算イメージ							
年数	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目
作業面積 (3年後に軌道に乗せる計画で試算)	3,000 a	4,000 a	5,000 a	5,000 a	5,000 a	5,000 a	5,000 a
作業代金 2,000/10 a 管内市町村の作業料金 (1,500～2,500)	600,000	800,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
ドローン導入経費350万円 耐用年数7年とした場合	500,000	500,000	500,000	500,000	500,000	500,000	500,000
年間収支	100,000	300,000	500,000	500,000	500,000	500,000	500,000

他部門への展開

生産者がドローン導入することになり、1台350万円の機体を購入すると仮定した場合

- ・農機部門 販売1台につき5～10%の収益とした場合 **175,000～350,000円**の収益が期待
 - ・農業融資 年利2.0%の場合 **年間70,000円**の収益が期待 ※ただし残高が減少すれば利息は減っていく
 - ・使用資材 肥料の場合 50a散布可能な肥料が5,000円の場合、3,000aだと300,000円 10%**30,000円**の収益が期待
 - ・米の集荷数 支援した生産者が1人1ha面積を拡大した場合（10a/8俵と仮定）80俵（160袋）の集荷数増
仮に30人の生産者の面積を拡大できた場合 30ha×80俵=**2,400俵（4,800袋）**の集荷数が見込める
- ※ %については機体や使用薬剤、資金によって違うためおおよそのイメージとして試算している

**作業時間が約 1 / 2 に！
作業時間短縮により生産規模を拡大しやすくなる！**



生産者の農業所得向上！

一つ一つの収益の積み重ねが、JA全体の事業に影響していく！

未来の農業者・農協職員確保のため

食育活動・社会見学の一環としてのスマート技術指導

従来の農業のイメージを払拭し、農業は先進的で魅力的な産業であることをPRしていく

→農業やJA職員の業務に関心を持ってもらい**未来の農業者と農協職員を確保**

目指すビジョン

5年後には・・・「**JAみやぎ仙南**と言えば**スマート農業**」

10年後には・・・「**宮城県**と言えば**スマート農業**」

スマート技術指導を通じて**農協の存在意義**を改めて証明したい！

最終的には「人と人とのつながり」が最も重要！

人々が助け合い力を合わせる「**協同の理念**」こそが他社にはない最大の強みであり、どのような方針・方向性で事業を進めるにも必ず核にはなくてはならない。

今後も組合員に必要とされるJAを目指すためには、「スマート技術指導」のように**新たな変化を加えて「協同の理念」を進化**させていく必要がある。

Chance

機会だと思ったら

Change

自ら変化を起こし

Challenge

挑戦する！